

南魚沼水稻生育速報 No.5

令和8年7月8日
南魚沼農業普及指導センター

・葉色の濃いほ場が多いことから、ほ場ごとに穂肥診断を実施し的確に穂肥を施用！

1 生育状況（7月8日現在）

管内全体 草丈：並み、茎数：並み、葉数：並み、葉色：やや濃い

田植日	田植日の平均	草丈		茎数		葉数		葉色	
		(cm)	(%)	(本/m ²)	(%)	(葉)	(差)	(SPAD)	(差)
5月10日頃	5/8	66	(106)	563	(116)	11.1	(0.6)	34.0	(-2.6)
5月15日頃	5/15	63	(102)	452	(93)	11.0	(0.5)	38.6	(2.0)
5月20日頃	5/19	61	(98)	468	(97)	10.6	(0.1)	38.3	(1.7)
5月25日頃	5/24	56	(90)	415	(86)	10.0	(-0.5)	40.5	(3.9)
全体	5/16	61	(98)	473	(98)	10.7	(0.2)	37.9	(1.3)
(参考)指標値		62	—	484	—	10.5	—	36.6	—

	移植日	草丈		茎数		葉数		葉色	
		(cm)	(%)	(本/m ²)	(%)	(葉)	(差)	(SPAD)	(差)
新之助	5/21	47	(87)	607	(101)	10.5	(-0.3)	36.1	(-0.9)
(参考)指標値		54	—	600	—	10.8	—	37.0	—

※（ ）内数値は指標値比・差

(JA・普及センター生育調査地点の平均、全体の調査地点は18地点)

2 今後の管理

(1) コシヒカリの穂肥施用時期のめやす

- ・コシヒカリの出穂期は、平年並みか1日程度早まる見込み

表 管内生育状況を基にした出穂期予想（7月8日現在）

地域	田植日	出穂期予想	穂肥施用時期のめやす	
			1回目 (出穂18日前～15日前)	2回目 (出穂10日前)
平坦地	5月10日	8月3日	7月16日～7月19日	7月24日
	5月15日	8月4日	7月17日～7月20日	7月25日
	5月20日	8月5日	7月18日～7月21日	7月26日
	5月25日	8月6日	7月19日～7月22日	7月27日
	5月30日	8月7日	7月20日～7月23日	7月28日
高標高地 (400m程度)	5月15日	8月5日	7月18日～7月21日	7月26日
	5月20日	8月7日	7月20日～7月23日	7月28日
	5月25日	8月8日	7月21日～7月24日	7月29日
	5月30日	8月9日	7月22日～7月25日	7月30日

※出穂期予想は今後の天候により前後する可能性がある。

(2) 分施肥体系の穂肥対応

- ・ 1 回目の穂肥は、出穂 24 日前に下表を参考に時期と施用量を判断し、出穂 18 日前 (幼穂長 1 cm) に施用
- ・ 移植時期の早いほ場では葉色が褪めてきているが、全般に濃いほ場が多いことから施用に当たっては、ほ場ごとに穂肥診断を実施し的確に施用

草丈		葉色	1回目穂肥の時期と施用量
75cm 以下	淡い	SPAD30 以下、 群落 2.5、単葉 3.5	出穂期 18 日前、 窒素成分 1.5kg/10a
	並み	SPAD30~34、 群落 2.5~3.5、単葉 3.5~4.5	出穂期 18~15 日前、 窒素成分 1.0~1.5kg/10a
	濃い	SPAD35 以上、 群落 3.5、単葉 4.5	出穂期 15 日前、 窒素成分 0~1.0kg/10a
80cm 程度	淡い	SPAD30 以下、 群落 2.5、単葉 3.5	出穂期 18 日前、 窒素成分 0.5~1.0kg/10a
	並み	SPAD30~34、 群落 2.5~3.5、単葉 3.5~4.5	出穂期 15 日前、 窒素成分 0.5~1.0kg/10a
	濃い	SPAD35 以上、群落 3.5、単葉 4.5	施用しない
85cm 以上	淡い	SPAD30 以下、 群落 2.5、単葉 3.5	出穂期 18 日前、 窒素成分 0.5~1.0kg/10a
	並み	SPAD30~34、 群落 2.5~3.5、単葉 3.5~4.5	出穂期 15 日前、 窒素成分 0~1.0kg/10a
	濃い	SPAD35 以上、群落 3.5、単葉 4.5	施用しない

- ・ 2 回目穂肥は、葉色や後期栄養を維持し、登熟向上と品質低下を防止するため、出穂期 10 日前に N1.0kg~1.5kg/10a をめやすに施用
- ・ 全量基肥施肥のほ場でも、葉色が急激に低下した場合は、2 回目穂肥の時期をめやすに追加穂肥を施用

(3) 3 回目の穂肥 (出穂期 3 日前) : 出穂期に葉色低下の恐れがある場合に検討

- ・ 気象庁が毎週木曜日に発表する 1 か月予報を参考にし、登熟期に高温が予想され出穂期の葉色が SPAD 値 32 を下回る恐れがあるほ場では、走り穂が見え始める頃 (出穂期 3 日前) までに速効性肥料を施用
- ・ 分施肥の場合の施用量は、窒素成分 1.0kg/10a を上限に施用
- ・ 全量基肥施肥の場合も、出穂期の葉色が SPAD 値 32 を下回る恐れがあるほ場は施用

(4) 斑点米カメムシの防除

- ・ 本田への進入を防ぐために、7 月中・下旬に一斉草刈りを実施

農作業中の事故防止や熱中症対策として、こまめな休憩と水分補給を行いましょう。

問い合わせ先 作物担当

電話 772-3337/FAX 772-2612